



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



**一般社団法人地域連携ネットワークみえ**

三重県伊勢市御薗町長屋1963  
 (株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)  
 E-mail [info@3c-mie.net](mailto:info@3c-mie.net) <https://3c-mie.net/>

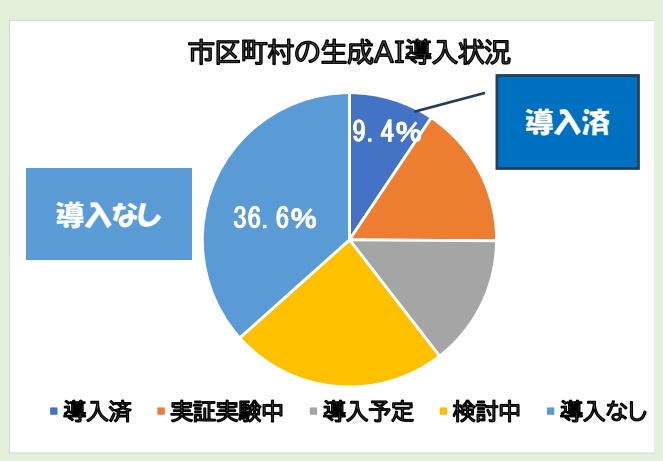


今年もあとわずかとなりました。  
 世界では、理不尽な紛争が続き、地球は異常気象が続く中、大水害や森林火災で、人も自然も悲鳴を上げています。すべて人災です。こうした現実を受け止めつつ、わたしたちは自分たちの暮らしを守り続けて行かなければなりません。そのためには、人々が互いに助け合う「相互扶助」が必要です。「相互扶助」という言葉の由来は、ロシアの学者ピョートル・クロポトキンが唱えていた社会学説の概念からだそうです。当社は、その精神を活動理念としています。  
 今回は、先月11月の会員のみなさんの活動をご紹介します。

## 生成AI体験学習会に4町が参加



最近話題の生成 AI について、三重明和インキュベーションセンターにて、明和町、多気町、玉城町、南伊勢町の役場みなさん16名がハイブリットで体験学習を行いました。当日は、明和町まちづくり推進課 DX 推進係のみなさんにお世話をいただきました。講師は、ご縁があって、富山県に本社を持つ(株)インテックの未来共創センターから講師を招き実施されたものです。



生成AIとは、大量の学習した機械学習モデルを用いて、記事、会話、写真、動画、音楽などを生成することができる人工知能(AI)の一種です。生成AIが得意なことは、「テキスト作成、アイデア提案、プログラミング、分析」で、苦手なことは、「数学的に難解な計算、正確さが求められる回答、専門性や気密性の高い情報、主観的な判断に基づく回答、最新の情報に基づく回答」です。行政分野での利活用の実態は、導入済が都道府県で51.5%、指定都市で40.0%、その他の市町村区で9.4%ということです。市町村区では、実証実験の段階が多く手探り状態。まだまだ本格的に利用が定着するには時間がかかる可能性があるようです。自治体での利用は、挨拶文の作成、議事録の要約、企画書案の作成が多く、課題的にはリテラシーやセキュリティーを重視されますから試行錯誤の状況のようです。

自治体に AI 導入が求められる背景として、「自治体戦略2040構想研究会」によると、我が国の人口減少の影響を受け、2040年には自治体職員が半減し、今の半数の職員で自治体を支える必要があるとされています。そこで、業務の自動化や業務支援のツールとしてAIを導入することで、職員の業務効率化や住民サービスの向上の実現に寄与することが期待されています。

## 「秋のランチ懇話会」を開催

津市のイタリア料理店 EBIIRO にて会員交流会「秋のランチ懇話会」を開催しました。ランチということで朝 10 時からの集いで、内田淳正名誉顧問(元三重大学学長)のご挨拶をいただき、テーブルを囲み懇談の後、多くの方と交流できるよう席を替えてお料理をいただきながら、情報交換を行っていただきました。



この集いは、様々な職種のみなさんに参加いただいておりますが、単なる異業種交流ではなく、地域の課題をみんなで共有し、その解決のお手伝いが出ないかを考えていく主旨で、これからも続けて行きたいと考えています。



## 福井県 池田町・美浜町を視察



度会郡4町のまちづくり部門の責任者のみなさんで福井県内2町の行政視察を行いました。まずは、山間部にある**池田町**を訪問いただきました。

同町は、福井県と岐阜県の県境の盆地にあり、森林が92%を占める中山間地域です。人口は2,230人で高齢化率47%弱、コンビニはゼロ、信号機は町内に2つ。33の集落からなる町です。この町に入って先ず驚いたのは、農地周辺はきれいに畔草刈りがされており、昭和の原風景が広がっていると思っていると、中心地ではペンション風の公共施設が点在。

池田町役場で説明をいただいた溝口副町長は、農水省官僚から同町の環境に魅了され役場に転職されたとのこと。前職は農協の営農指導員であった町長の強いリーダーシップのもとに、農業振興と環境を含めたまちづくりを進められ、「地域資源循環型農村」を目指されました。当時、福井市内のショッピングセンターでアンテナショップを始めたことから人気を得て、一人ひとりの匠を連結循環させる「百匠一品事業化戦略」や完全有機栽培、無農薬・無化学肥料栽培、低農薬・無化学肥料栽培という独自の栽培基準と認証を行う「ゆうき・げんき正直農業」を展開するとともに食品資源再生事業から堆肥づくりを実施するなど、町民が一丸となって取り組まれている。同町は一度も農薬空中散布を行ったことがなく、除草剤も使ったことがないとのこと。2003年からセイタカアワダチソウの駆除活動を実施されており、住民の連携協力体制が伺え得る一例でしょう。



移住者を受け入れる  
戸建て町営住宅



小学校分校を活用したワー  
クスペースの交流喫茶



農産物加工の商品開発  
を行う食LABO

町の戦略の機動力になっているのは町の間違ひなく農業公社の存在です。そして、町民のみなさんが自分たちの町は自分たちで守っていくんだという強い思いと、町長・副町長の強い意思だと感じた一日でした。



木材加工を学ぶ  
ウッドLABO



次に日本海に面する**美浜町**を訪問し、観光施策について伺いました。同町は、人口8,753人の三方五湖を有する若狭地方に位置し、関電原発もあり比較的財政豊かなまちです。福井県は予算もかけて観光に力を入れていますが、同町は「観光誘客課」として観光に特化した部署を設けています。町役場は一般的に商工部門の中に観光部門を置いているのですが、新幹線の延長とともに同課となったそうです。現在8名の体制で関連施設の運営と県外へ出向き誘客活動(営業)を実施されています。観光で経済的効果を得るには、宿泊施設の整備が必要ということで、県と町の補助により多くの施設の改装が行われました。20年前200軒あった民宿は今は36軒ということですが、

民宿等活性化事業により多くの施設改修が行われました。富裕層をターゲットにした大規模改修工事の支援も実施されています。

また、県が行っているFTAS(福井県観光データ分析システム)と町の独自の分析データを駆使し、旅行者の属性や行動、満足度などを解析して戦略づくりに活かされています。

美浜町観光誘客課は、JR美浜駅舎内に観光協会とともに事務所を構えています。



## 社団として地域交流活動に協力



玉城町は、来年に町制70年を迎えます。その町内には4つの小学校区があり、その一つの小学校区である有田(うだ)地区で住民交流を目的に、遊び心で「うだむらアカデミー」と称して昨年度から交流行事が企画されています。

今回は、北勢地区で活躍されている「三重ユナイテッドウィンドオーケストラ」を迎えてコンサートが開催されました。100名を超える参加で大いに盛り上がりました。社団もチラシ作成などの協力を行いました。

## 町長自らがハラスメント研修を受講



最近、自治体のなかでもハラスメント問題が身近なものになってきています。この度、玉城町、度会町、南伊勢町、大紀町の4町長自らがハラスメント研修を受講されました。講師は、当社団の法人会員でもある(株)Will Staffの専任講師が務められました。

職場でハラスメントを受けたことがある人は全体の38%になるそうで、そのうち54%が仕事のやる気を喪失するとのこと。またハラスメントを受けた20代の3割が離職を選択するそうです。貴重な人的資源の喪失につながることは深刻な問題ですね。



今年もあとわずか、どうぞ良いお年をお迎えください